

## 陳 情 書

### 【陳情の趣旨】

狛江市は、「狛江駅北口エリア道路利活用方針」に沿って、泉の森会館通りの既存の樹木をヤナギ1本を残して伐採・移植し、低木・植栽はすべて撤去しました。今後は、噴水を撤去、周辺の高木も一部伐採・大枝剪定することです。

噴水周辺の樹木群は、「緑地保全地区指定された区域の延長としての緑の塊」として、30年前の北口再開発の際も市民協働の検討の場で、そのままに残そうという議論がなされ、残されてきたものです。

そういった歴史的経緯を尊重し、今後も維持保全してください。

そのために、以下陳情いたします。

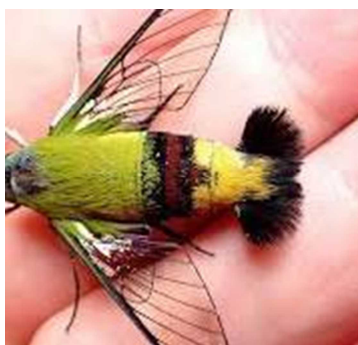
1. 駅前に自然が残る全国でも珍しい狛江市の駅前の緑を求めて来る市民の期待を裏切らずに賑わいの創出をお願いします。
2. 土面は残された貴重な自然であると同時に、樹木の育成に欠くべからざるものです。雨が浸透し地下水が涵養され、周辺の都市型水害を未然に防ぐ働きもしています。特に大木周辺は、樹木の健康を保つよう十分に土面をとってください。
3. 現在の樹形が美しいケヤキやシラカシは、駅前のシンボルツリーでもあります。その樹木にあった剪定をし、樹勢をそいでしまうような強剪定はやめてください。トウカエデの株立ちの大枝伐採は再考してください。理由は管理上の都合とのことです。大枝を伐採することで樹勢に影響が出て、樹木自体が弱くなる心配があります。理由も含め再考してください。
4. 泉の森会館通りの植栽や噴水を撤去することでかなりの空間が創出されます。それら空間を気持ちよく利用できるためにも豊かな既存の自然を生かした景観空間となるように整備運用してください。腰の曲がった木の伐採は再考してください。管理上の都合（樹木上部が緑地保全地区に入り込んでいるので）とのことですが、今ある樹木の存在を管理上の都合で伐採するのが妥当とは思えません。また、少し弱っているだけの人間に「あなたはちょっと具合が悪いから今殺してあげます」と言っているようなもの

です。伐採の再検討をお願いします。

5. 泉の森会館通りの植栽であったクチナシ・サルスベリは、オオスカシバやアシブトクチバの食糧となる草（食草）ですし、サツキはルリチューレンジバチの食草で、道路（歩道）の植栽でも昆虫の発生源として保全地区内柵内や散策路に飛来し市民の楽しみの一つになっていました。現在、廃棄される予定であったクチナシ・サツキの一部をプランターに仮植えして保全し、元気に育っています。（保全したクチナシに2匹オオスカシバの幼虫が生存していました）ありきたりの植栽でも今では珍しくなった昆虫などの発生源になっています。

一部は保全地区内で引き取る予定ですが、これらの植栽を今後の整備に活かしてください。

#### 【参照】



オオスカシバ幼虫  
と成虫  
蜂ではなく、蛾です。  
【出典はインター  
ネット】